

第2回豊能医療・病床懇話会結果の概要

1 地域医療構想の推進に関する意見

【高度急性期について】

- 高度急性期と急性期の区分の定義を明確にしてほしい。
- 高度急性期機能の整備は、三次医療圏を視野に議論する必要があるのではないか。
- 豊能二次医療圏では、大阪大学医学部附属病院、国立循環器病研究センターがすべての病床を高度急性期病床と報告しており、高度急性期病床が吹田市に集中している。吹田市以外の地域では、高度急性期病床は少なく、その点を考慮して検討するべきでないか。
- 過剰な病床への転換は機械的に認められないということではなく、地域でニーズがあれば認めるべきではないか。

【小児・周産期の集約化の検討について】

- 診療科の集約という観点ではなく、病院の再編という長期的な観点の方が、地域のニーズに合っているのではないか。
- 小児周産期の体制の検討については、二次医療圏を超えての広域的な検討が必要ではないか。
- 2020年度の診療報酬改定において、総合入院体制加算の算定が、地域医療構想調整会議で承認されれば、小児科、産科、産婦人科を標榜しなくても、算定できるようになる見込み。政策誘導が出来たので、その点も含め検討が必要ではないか。

2 病院の将来プランに対する意見・質問等

(1) 公立・公的病院

なし

(2) その他、民間病院等に対する意見・質問等

なし

3 保健医療協議会においてプラン等の内容について説明を希望する病院

なし